

様式例（法第10条第1項関係）

令和5年度事業計画書  
令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人 菊馬会

1 事業実施の方針

- ①お供馬を支援する活動として、愛馬会会員をはじめ、馬主、乗り子、馬好きの方々への馬の取り扱いや乗馬のスキルアップの為講師をお招きし講習会を行う。
- ②馬の多様な活用法として地域に根付けるホースセラピーを研究普及活動を行う。また体験会を地域の多様なステークホルダーと有することで馬を安心安全に配慮して取り扱う為の人材育成を行う。
- ③乗馬スクールの開催については、小、中学校の校外学習を行う。また子どもや老若男女の体験会を行い、乗るだけではなく馬の話をする事で信頼関係ができるプログラムを構築する。
- ④養老馬の受け入れ及び養老牧場の運営として、お供馬の高齢化が進み、今後走ることが難しくなったサードキャリアの為のプログラムを構築する。
- ⑤観光をはじめとしたまちづくりの推進を図る活動として、菊間町の自然環境、地域住民や企業との連携により、自然、観光地などを巻き込み、教育、福祉面、事業継承、文化面、観光面にあった馬の活用方法を構築することで馬と共生するまち、菊間をアピールし地域創生へ繋ぐ。
- ⑥馬の自然環境での育成に伴うボロ堆肥の農業や園芸への活用について馬糞堆肥を有効活用するよう普及活動を行う。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	事業費の予算額(千円)
お供馬の調教及び繋養施設の運営	愛馬会や乗り子の乗馬指導	令和5年4月27日から4月30日 *9月頃の予定(年2回)	丸馬場等	20名	40名	1,000
ホースセラピーの研究、開発、普及活動	ホースセラピーとは何ぞや 人材育成	令和5年7月末から 令和6年2月まで	丸馬場等	14名	40名	250
乗馬スクールの開催	馬とふれあい教室 (中学校校外学習) 他	随時	校内グランド、 丸馬場等	10名	20名	1,000
養老馬の受け入れ及び養老牧場の運営	養老牧場の受け入れ及び運営	随時	場所未定	5名	10名	0
観光をはじめとした産業育成振興を通じ、まちづくりの推進を図る活動	馬とふれあい広場・ 外乗など	随時	菊間町内観光地等	10名	20名	280
馬の自然環境での育成に伴うボロ(馬糞)堆肥の農業や園芸への活用	菊間町内の田畑へ馬糞を入れて耕す	年中	菊間町内全域	6件	30名	0

令和5年度 活動予算書  
 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人 菊馬会

科 目	金 額 （単位：円）	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費		
賛助会員受取会費		
.....		0
2 受取寄附金		
受取寄附金	100,000	
施設等受入評価益		
.....		100,000
3 受取助成金等		
受取民間助成金		
全国乗馬振興協会	255,000	
		255,000
4 事業収益		
お供馬の調教及びけいよう施設の運営事業	100,000	
ホースセラピーの研究、開発、普及活動	100,000	
乗馬スクールの開催	15,000	
養老馬の受け入れ及び養老牧場の運営		
観光をはじめとした産業育成振興を通じた	40,000	
馬の自然環境での育成に伴うボロ（馬糞）堆肥の農業や園芸への活用		
その他この法人の目的を達成するために		
〇〇事業収益		
5 その他収益		
受取利息		
雑収益		
.....		255,000
経常収益計		610,000
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
役員報酬		
給料手当		
法定福利費		
退職給付費用		
福利厚生費		
需要費.....	20,000	
役務費	40,000	
人件費	60,000	
(2) その他経費		
会議費	20,000	
旅費交通費	70,000	
施設等評価費用		

減価償却費			
支払利息			
保険料	30,000		
会場使用及び賃借料	50,000		
消耗品費	100,000		
講師謝金	100,000		
備品購入費			
その他経費計	490,000		
事業費計		490,000	
2 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬			
給料手当			
法定福利費			
退職給付費用			
福利厚生費			
.....			
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費	30,000		
旅費交通費	40,000		
施設等評価費用			
減価償却費			
支払利息			
消耗品費	50,000		
その他経費計	120,000		
管理費計		120,000	
経常費用計			120,000
当期経常増減額			490,000
III 経常外収益			
1 固定資産売却益			
.....			
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
1 過年度損益修正損			
.....			
経常外費用計			0
当期正味財産増減額			490,000
前期繰越正味財産額		3,270,389	
次期繰越正味財産額			

(備考)

- 1 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。
- 2 設立当初の事業年度及び翌事業年度の活動予算書はそれぞれ別に作成する。
- 3 設立時の資金がある場合は、設立当初の事業年度に設立時正味財産額としてその額を記載する。翌事業年度以降は、前年度の活動予算書に次期繰越正味財産額として掲げた額を、前期繰越正味財産額として記載する。
- 4 事業費及び管理費は、それぞれ人件費及びその他経費に区分したうえで、形態別に表示する。
- 5 特に、経常費用の規模（事業費＋管理費）でみた特定非営利活動に係る事業の割合、経常費用額に占める管理費の割合等は、特定非営利活動を行うことを主たる目的とすること、営利を目的としないものであることという法定要件への適合性の判断材料となる。
- 6 2部作成する。